

後藤淳理事長を中心に記念写真に収まる永年勤続表彰を受けた皆さんと関係者



# 新たな100年 気持ちを一つに



愛知工業大学  
愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高校  
愛知工業大学附属中学校

目次:	
永年勤続の18人	2
防災研が10周年	3
記念募金が終了	3
工学教育で大会	5
鉄人10号が登場	5
サイエンス大賞	6
名電ブース人気	7
故野牧先生偲ぶ	8

発行所  
名古屋電気学園  
〒470-0392  
豊田市八草町八千草1247  
TEL (0565) 48-8177

## 学園創立百一周年記念式典

名古屋電気学園の創立百一周年記念式典は十一月十二日、若水キャンパス淳和記念館三階記念ホールで後藤淳理事長はじめ学園関係者ら約百四十人が出席して開かれました。後藤淳理事長は式辞の中で、現在の日本の状況、少子高齢化問題、経済情勢などに触れながら「教職員が気持ちを一つにして、これからの大学はどうあるべきか考えていくことが一番重要なこと」と述べました。(式辞2面)

続いて永年勤続表彰を行い、勤続四十五年の寺本和幸経営学科教授をはじめ同三十五年八人、同二十五年五人、同十五年四人の計十八人を一人ひとり表彰しました。これに対し近藤高司経営学科教授が受賞者を代表して「長い年月楽しく働くことができたのは理事長、学長先生が培ってこ



式辞を述べる  
後藤淳理事長

## 後藤淳理事長が式辞 永年勤続18人を表彰



謝辞を述べる近藤高司経営学科教授

この後、学園物故者法要



本年度の新たな物故者は元理事、教職員、学生ら計十五人でした。

読経の流れる中、亡くなった方々に感謝の念を込め、冥福を祈りながら焼香していました。

この後、後藤淳理事長らは境内の学園慰霊塔を参拝、式典や法要を無事終えたことを報告していただきました。

会場の記念ホールは音響もよく、普段は高校吹奏楽部が練習に使っており、約五十人の部員が式典で国歌や学園歌の伴奏をしまし

た。同部は全日本吹奏楽コンクールで惜しくも銀賞でしたが、後藤淳理事長は式典後、部員たちにねぎらいの言葉をかけていました。

が覚王山日泰寺本堂で、後藤淳理事長を祭主に、学園理事・関係者、遺族、それに大学学友会代表、附属中学、名電高校のクラス代表の生徒ら合わせて約二百五十人が参列し、厳かに営まれました。

急に冬入りしたような寒い日になりましたが、あす11月13日は学園の創立101周年記念日に当たり、本日ここに記念式典を開くことになりました。昨年は学園の創立100周年ということで、この記念館を造りました。正面の展示室では100年間のいろんな歴史がわかるような展示もされています。式典を行う、このホールも非常にいい感じに出来ており、淳和記念館と名づけられました。また百年の記憶や思い出、いろんな話をまとめた学園の百年史も間もなくできあがりです。初めからの記録をできるだけ細かく整理しようと用意しています。

ここ数年、特に2年8カ月前の東北の大震災以来、日本は元気がありません。これだけ大きな被害が出るとは誰も想像だにしませんでしたが、それでも日本人はみんな助け合おうと復興に努力しています。みんなで助け合おう、まじめに取り組んでいこうという気持ちが一番大事なことで、そんな日本人は世界に誇るべきいい民族だと思います。その後、政権が代わり、景気も良くなるという予測のもとに、いろいろな政策が立てられており、幾分そういった兆しがあるのではないのでしょうか。また昔のような元気な日本になることを希望しますし、私たちみんなで努力していかなくてはなりません。また異常気象で近來にない大きな台風が来る、集中豪雨が来る、竜巻が起きる、温暖化の影響かもしれないかもしれませんが、自然に対して人間の力は限られ、小さいものです。

大学は先週、外部評価の实地調査がありました。大学は7年に1度の外部評価を受けなければなりません。日本は少子化に直面し、将来の数字も出ています。高齢化がさらに進むこともわかっています。そういう中で取り組むべき一番重要なことは教育です。大学は全国に数多くあり、進学率も上がっています。日本は先々どのような方向に向かっていくか一番考えなくてはならないことです。学園は愛知工業大学を中心に中学、高校、専門学校が一つになって頑張っていますが、中心になるのは愛知工業大学です。大学も将来どういう形であるべきか問われています。

きょうは18人が永年勤続表彰されます。一番長い人は寺本先生、45年です。35年の方も大勢見えています。30年前、35年前、40年前、ちょうど学園も大きく発展する波に乗ってきたころです。それぞれのところでご尽力いただき、成果が上がってきていることに、あらためて感謝を申し上げます。この後、物故者法要も行われますが、この法要は何十年も続いている学園の伝統です。中国の人がよく言うておりますが、人は水を飲む時に井戸を掘った人のことを忘れてはいけぬ、その気持ちを何十年たっても忘れてはいけません。頑張っていたいただいた方々、ご苦労様でした。今後のご活躍をお祈りします。学園も気持ちを一つにして頑張って、発展していきたいと思っています。

本日はおめでとうございます。

## 創立百一周年 後藤淳理事長の式辞

永年勤続表彰された皆さん。

【勤続45年】

大学

経営学科教授・寺本和幸

【勤続35年】

大学

建築学科教授・建部謙治

経営学科教授・近藤高司

基礎教育センター教授・森豪

高校

教諭・西三男

教諭・原野照久

事務局

システム管理課課長・山里静子

大学事務局

図書課課長・加藤直美

若水事務局

事務職員・青山春樹

【勤続25年】

大学 情報科学科教授・鈴木晋

高校

教諭・川嶋範夫

教諭・島崎裕樹

専門学校

教授・森島茂樹

大学事務局

本キャンパス事務室係長・水谷亮介

【勤続15年】

大学

応用化学科教授・手嶋紀雄

基礎教育センター教授・高木淳

大学事務局

教学センター学生課主査・榎岡憲司  
入試センター入試広報課係長・大矢弓夏

### 後藤すゞ子先生奨学金を交付

学園は11月19日、「後藤すゞ子先生奨学金」を大学工学部学生の母親に交付しました＝写真。元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき設けられている奨学金は、思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。

交付式は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤淳理事長が、すゞ子先生の思いを説明し、母親に手渡しました。理事長は学生に「兄弟仲良くしてお母さんを支え、しっかり勉強して頑張りなさい」と励ましの言葉をかけていました。後藤泰之学長ら大学、学園幹部も同席しました。



# 学園創立 100 周年記念募金が終了

名古屋電気学園の創立 100 周年記念募金がことし 8 月末で終了、募金総額は 2 億 8337 万 4635 円に達しました。募金は平成 23 年 9 月から実施、2 カ年の間に学内外の法人、個人、卒業生、教職員らから 2,934 件の多大な寄付がありました。

学園は若水キャンパスでの淳和記念館建設をはじめ各設置校の教育施設や設備の整備資金に充てました。

学園は感謝の意を込めて、寄付者名を学園ホームページに掲載するとともに、10 万円以上の方々については淳和記念館内に銘板を設置、名前を刻むことにしています。

## 淳和記念館建設などに役立てる



八草キャンパスでは教職員や学生がサッカー場に避難しました

学園全設置校挙げての防災訓練が十月二十三日、一斉に行われました。マグニチュード 8.5 の東海・東南海連動型の巨大地震が紀伊半島沖を震源に発生、学園周辺では震度 6 弱が予想されたとの想定で、五キャンパス合わせ五千六百人が参加しました。

# 巨大地震に備え防災訓練

緊急地震速報を受けてサイレンとともに「地震が来ます」との放送が流れると授業中の学生、生徒たちは机の下に隠れ、「震動が収まりました」との放送を合図に一斉に避難しました。学園本部棟に設けられた学園対策本部には後藤淳理事、各設置校の対策本部を通じて被災状況、安否確認などの情報収集にあたりました。

八草では地域防災研究センターに後藤泰之学長を本部長とする対策本部が設けられ学内訓練を統括。三千人余りの学生はサッカー場に避難、安否確認が行われたほか、放水、担架搬送などの訓練がありました。

正木和明同センター長は「このような大規模な訓練を八年間にわたって実施している学校はありません。学生、教職員が一体となり取り組んだ素晴らしい訓練でした」と話していました。

# 地域防災研究センター10周年記念シンポジウムで巨大地震について話す入倉孝次郎客員教授



## 地域防災研究センター10周年

### 記念シンポで講演や研究報告

愛知工業大学地域防災研究センターは十周年を迎え、十一月二十六日、名古屋ガーデンパレスで開かれた記念シンポジウムで「南海トラフ巨大地震に備えた地域防災力向上の取り組み」をテーマに講演や研究成果の報告がありました。

シンポジウムには自治体や企業、他大学の防災関係者、地域住民、本学関係者ら合わせて約百五十人が出席。後藤泰之学長の挨拶に続き、豊田市の太田稔彦市長が祝辞を述べました。講演は四氏が行い、名古屋電気学園愛名会の神尾隆会長（本学客員教授、東和不動産相談役）が「企業の防災力向上へ取り組むべき連携課題」、愛知県の小林壯行防災局長が「南海トラフ巨大地震に向けた愛知県

の災害対策」、元京都大学副学長の入倉孝次郎氏（本学地域防災研究センター客員教授）が「東日本大震災から学んだこと」、本学が連携している愛知県南知多町の内海・山海まちづくり協議会「きずなの会」防災部長の服部光男氏が「津波避難訓練への取り組み」と題して、産、官、学、地域の立場から発言しました。また正木和明センター長（都市環境学科教授）は「自治体、住民、本学教職員の方々、とりわけ企業の方々には多大なご支援をいただき、防災の愛工大の代表的研究施設として知られるよ

うになりました。今後、南海トラフの地震を見据えた研究に積極的に取り組んでいきます」と話しました。同センターは平成十六年度に文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業に採択されたのを受け発足。ものづくりの盛んな三河地方を中心に地域防災力向上の研究に取り組んできました。平成十七年には緊急地震速報の配信も始めました。また企業の防災組織「あいぼう会」を立ち上げ、社会人防災マイスター養成講座を行っています。これは愛知県のシェイクアウトにも協力しました。

## 地域企業が参加したAITテクノサロン



大学の総合技術研究所社会連携室が主催するA I Tテクノサロンが11月14日、「スマートグリッド時代における電力機器・電気機器・電気絶縁技術」をテーマに同研究所視聴覚室で開かれました。本学教員の研究成果や技術シーズを地域企業に話題提供し、交流を深める場として2年前から開かれています。4回目にあたる今回は過去最多の88人が参加し、発表を熱心に聞き入っていました。

後藤泰之学長の挨拶の後、まず大久保仁電気学科教授が「電気機器絶縁技術の現状と

## A I Tテクノサロン

将来動向」と題して講演、「絶縁技術はこれまで縁の下の力持ち的な役割を果たしてきたが電気機器の高電界化が進む中でその性能を決定づけるキーとなるでしょう」と説明しました。続いて、村瀬洋電気学科教授が「最近の電力機器絶縁診断技術の動向」と題して、最後に電気学科の箕輪昌幸、依田正之両教授が「雷現象の新しい展開と雷害防止技術の実際」と題して講演しました。

## 大久保電気学科教授らが発表

日本学術振興会が  
金田行雄教授表彰

本学の金田行雄・基礎教育センター教授が科学研究費(科研費)助成事業の審査委員として十月三十一日付で日本学術振興会から表彰されました。科研費の審査は書面審査と合議審査の二段階で行い公平・公正さを重視、同会の学術システム研究センターで毎年検証が行われ、翌年度の審査委員選考に反映されています。重要な役割に対し平成二十年度からは「有意義な審査意見を付していただいた審査委員」を表彰、金田教授は本年度、五千三百人の書面審査委員のうち表彰を受ける百二十四人の一人



金田行雄教授

に選ばれました。

金田教授は乱流などの流体力学の数理的および計算科学的研究をしており、基礎教育センターで基礎科目としての数学教育を担当しています。科研費審査の担当分野は公表されていませんが、金田教授は「公平・公正さと客観性を心がけて審査しました。思いがけない表彰に嬉しく思います」と話しています。

なお本学の教員がこの表彰を受けたのは初めてです。

## 教職志望学生 定時制を見学

本学の長谷川省一基礎教育センター教授の指導を受ける教職志望学生が十月十九日、愛知県立小牧高校定時制課程を見学しました。参加したのは応用化学科、経営学科、情報科学科



定時制の授業を見学する教職志望学生

など七学科の四年生で教育実習を終えた二十八人。「生徒を構(かま)う」という教職者としての資質をしっかりと具体的にイメージしてもらうために初めて実施しました。

夕方同校に到着した学生たちは、四年生の理科の授業で「ヒトの遺伝形質 優性、劣性」を学ぶ様子を見ました。この後、水畑宏総校頭の講話があり、定時制について説明を受けました。生徒数は約百人、三分の一が外国系で特にブラジル人が多いという事です。座学より学校行事が好きで、また集中できない半面、心優しい生徒が多いと

いう話でした。水畑教頭は生徒指導のキーワードとして、①生徒とよく話をして信頼関係を築く②自分で考えるよう自主性を育成する③少しずつ自信を持たせるの三点を強調しました。学生たちは「定時制を見学したのは初めて。先生が生徒一人ひとりにしっかり対応していたのが印象的でした」「生徒からは熱心な質問が出ていて、学びたい気持ちや伝わってきました」などと話していました。

## 映画「A・F・O」撮影終了

大学が製作する映画「A・F・O」の学内撮影が九月十三日、終了しました。学生スタッフは翌十四日打ち上げの会をA I Tプラザで開きました。多胡由章監督や主演の岡本あずささんらも駆けつけ、拍手と歓声で盛り上がっていました。プロジェクトリーダーの山田英介応用化学科教授が「この経験を今後の人生に役立ててほしい。学生の成長と映画の成功を祈っています」と挨拶しました。映画は来年春に完成、名古屋、東京、関西で劇場公開の予定です。

# 「ものづくりと技術者教育」

## 工学教育協会 本学で地区大会

東海工学教育協会の二十五年度地区大会は「ものづくりと技術者教育」をテーマに十一月二十七日、本学八草キャンパス一号館で関係者約百人が出席して開かれました。

担当校として後藤泰之学長が挨拶、続いて本学客員教授でもある尾陽木偶師の九代玉屋庄兵衛氏が特別講



右から大日方五郎名古屋大学教授、杉浦藤虎豊田工業高等専門学校教授、本学の内田誠之機械学科教授、雪田和人電気学科教授



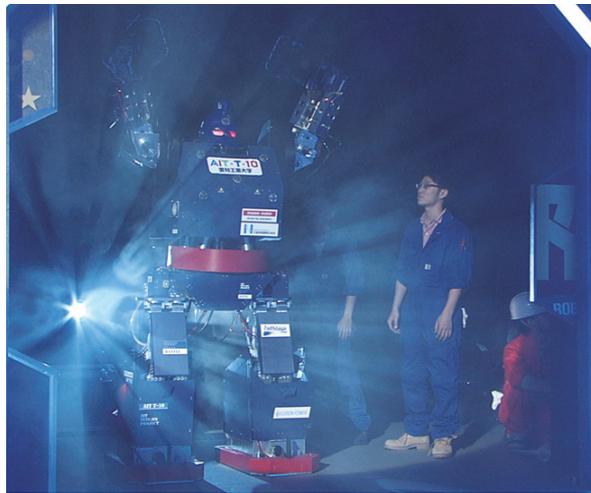
デイスカッションの司会を務めた本学の成田朝工学部長

演、「茶運び人形」や「弓曳き童子」などのからくりを上演、江戸時代からの知恵と技を解説しました。

この後、成田朝工学部長の司会でパネルディスカッションに移り、大

## 「リアルロボットバトル」 「鉄人10号」登場

©光プロ



雄叫びとともに両腕を挙げてスタジオに登場した古橋研究室の鉄人10号（日本テレビ提供）

日方五郎名古屋大学教授が「支援ロボット・パートナーロボットの研究開発」、杉浦藤虎豊田工業高等専門学校教授が「ロボカップへの挑戦」、本学の内田誠之機械学科教授が「人力飛行機の開発」、雪田和人電気学科教授が「ソーラーカーレース鈴鹿への参加」について、それぞれ報告しまし

た。

会場からは、学生のやる気を引き出し、モチベーションをどう高めていくかという質問があり、「役割分担し孤立しないよう場所を見つけてあげる」「大きな機体が浮くと全員目の色が変わってくる。そういうことをなるべく早く体験させる」などの意見が出ました。

本学電気学科の古橋研究室（古橋秀夫教授）が製作していた「鉄人10号」が十二月十三日、日本テレビの番組「リアルロボットバトル」に登場、勇姿を披露しました。

鉄人10号は古橋教授の指

導で学生十二人がことしの夏前から設計にかかり、夏休みも返上してゼロから作り上げました。鉄人プロジェクトの9号からは飛躍的に進化しており、重さ約二百キロ、高さ二メートルを中心とした部品約五千

点、モーター三十個を内蔵しています。うち六個は胴体部のリニアモーターで、連動して伸縮するパラレルリンク機構により大きなパンチ力を生み出します。鉄人28号のイメージを踏襲し、両足を交互に動かして歩行もします。

バトルは全国から選ばれた本学はじめ日理工学部、東工大、沼津高専、企業、民間研究者などの八チームが、ヒト型の大型ロボットを闘わせ、性能や技術を競うもので、十一月十日、東京都千代田区と同テレビ麹町スタジオで事前収録がありました。鉄人10号も登場しました。鉄人は初戦で、丸ファミリー（滋賀県のロボット研究者一家）のロボットと対戦、残念ながら敗退しま

### 大学編入学生を激励

した。勝負に徹したデザイナーのチームが多かったのに対し、本学はデザインや機能面で鉄人28号の夢や理念を追求した美しさを感じさせていました。

番組は全国に放送され、本学の名前とイメージキャラクター鉄人の技術力が全国にPRされるよい機会になりました。

愛知工業大学情報電子専門専科から来春の卒業後、大学へ編入学する二年生たちの激励会が開かれました。現時点で決定している編入先は愛知工業大学が八人、豊橋技術科学大学、中部大学、大同大学各一人の計十一人です。

愛工大が十一月十四日、他大学が同二十一日、同校会議室でそれぞれ行われ、稲垣慎二校長が専門学校との学習の違いを説明し、「大学で新しい友人を得て、充実した学生生活を送ってほしい」と激励の言葉を述べました。学生たちは単位の関係で一人を除き、三年次に入る予定で、進学へ気持ちを新たにしていました。

# AIITサイエンス大賞発表会 高校生の研究最多38件

科学技術立国を担う若者を育てる目的で大学が中部五県の高校生を対象に設けているAIITサイエンス大賞の研究発表会が十一月九日、八草キャンパスで開催されました。第十二回となる今回は自然科学部門に十八校二十四件、ものづくり部門に十一校十四件の過去最多の参加があり、高校生の熱意に富んだ研究が数多く

発表されました。

開会式で後藤泰之学長は「応募論文を読んで日頃の努力を強く感じました。今後、後も失敗を恐れずどんどん挑戦してください」とエールを送っていました。二部門とも午前中はステージ発表、午後はパネル展示発表が行われました。ステージ発表は映像を写しながらバラエティーにあふれる研究



気化熱を利用した猛暑対策をテーマに発表する岐阜工業高校B

を一枚五分間で簡潔にまとめていました。パネル展示では高校生たちはお互いに質問し合っていました。

## ナノテクの世界的権威

### 遠藤先生が講演

カーボンナノチューブの大量生産技術を開発した世界的な科学者で信州大学特別特任教授の遠藤守信先生が十月十日、高校の喬徳館で全一年生六百人を前に講演、「将来の日本を担う高校生の創造力をどう作るか」というテーマで熱弁を振るいました。

遠藤先生は長野県須坂市出身。カーボンナノチューブの研究ではノーベル賞候補とも目され、本学客員教授も務めています。後藤淳理事長の出身高校の後輩にあたる縁で、「名電高校生

自然科学部門は正木和明都市環境学科教授を委員長に十人、ものづくり部門は成田国朝都市環境学科教授を委員長に八人の本学教員が審査にあたりました。正木教授は「先輩の成果を受け継いだ伝統的な研究、その年の災害や事象に取り組んだ研究、地域貢献を目指した研究。多様な研究が発表され、参加者も増え、レベルが高く審査に苦勞しました」と話していました。

## 熱弁をふるう遠藤守信先生



の心に火を灯したい」と毎年秋に、高校で恒例の講演を続けています。

遠藤先生はまず日本のGDP順位やハイテク製品のシェアが低下していることについて「日本の経済力を回復するためにはイノベーション(技術革新)が必要だが、日本の高等教育が東

南アジア諸国の中で遅れをとっている」と現状を指摘。コンピュータは六十五年間で能力が百万倍高まった例をあげて勉強の重要性を強調し、日本が地位を回復するためには「若い人たちが大学へ入り、その先の大学院も見据えて、しっかりと勉強してほしい。女性も理系に進出してほしい」と名電生にエールを送りました。

イノベーションのほかに地球温暖化を解決することの重要性にも触れました。気温が一度上昇すると農産物の生産量が一割減り、五年後には半減すると危機を訴えました。これを解決するためにナノ技術の活用も提言していました。

遠藤先生は「勉学の努力は決して人を裏切らない」と自ら考案した言葉も紹介し「今は苦しくとも基礎学問をしつかりやってください。努力すれば創造力がついてくる」と話しました。

遠藤先生はプロジェクトを使い、古今東西の科学者の名言も数多く引用して九十分間熱弁、高校生も熱心に聞き入り、メモを取る姿も見られました。

審査の結果は次の通り。

### 自然科学部門

- 優秀賞 岐阜高校「守れ！ふるさとのカスミサンショウウオV」、一宮高校B「大気圧プラズマによる樹脂表面の親水化・復疎水化の研究」豊田工業高校「色素増感太陽電池の最適な作製方法の検討」
- 奨励賞 静岡北高校B、時習館高校B、飛騨高山高校、一宮高校A、多治見北高校

### ものづくり部門

- 優秀賞 向陽高校A「自作赤道儀で星を追う part 2」時習館高校B「おもり座標自動測定システム」一宮高校B「自作ドームによる星空の再現」
- 奨励賞 時習館高校A、岐阜工業高校B、一宮高校A、豊田工業高校B、愛工大名電高校

### 名電ブースに人気

### 愛知の私立学校展

「愛知の私立学校展」(県私学協会など主催)が十月十九、二十両日、名古屋市公会堂で開かれ、名電高校附属中学も合同で相談ブースを出展しました。同展には両日合わせ小中学生や保護者ら八千四百人余りが訪れました。近年、各学校が独自に見学会を開き、塾なども同様の説明会を開催するようになり、分散化で同展自体への来場者は減少気味ですが、その中でも本学



中高合同で出展した名電ブース

ブースは関心が高く、人気を集めていました。

本学では両日とも他校より多い高校十二人、中学二人の計十四人の先生方が対応しました。生徒が机に座

りきれず、立ち話のような形で相談を受ける様子も終日見られました。同展での責任者である高校渉外部長の日詰彰則教諭によると、名電高校への人気の高まりはことし八月末に開いた体験入学への参加者数が例年より五百人以上多い千七百三十人に達するなど数字的にも裏付けられるということでした。

日詰教諭の話では、公立でも諸経費がかなり高く私学とさほど変わらないため、保護者は大学への進学や大学の就職率などを見極め



て判断しているとのことでした。日詰教諭は「愛工大が頑張つて一定の偏差値と高い就職率を維持しているのが名電高校への評価につながっている」と分析していました。

同展では制服展示コーナーもあり、名電高校の制服に触れて確かめる女子生徒の姿も見られました。写真。

### 高校吹奏楽部クラブ表彰続く

学園は九月二十日、十一月二十一日の二回、高校吹奏楽部をクラブ表彰しまし

た。九月の表彰は東海代表として十月二十七日、名古屋国際会議場で開かれた全



マーチングコンテスト出場に対する表彰で後藤淳理事長を囲み記念撮影



全日本吹奏楽出場で伊藤宏樹教諭を表彰する後藤淳理事長

日本吹奏楽コンクール全国大会出場に対するものです。今回で三十六回目と、最多出場記録を達成しましたが、惜しくも銀賞でした。十一月の表彰はマーチングに対するもので、十一月二十四日大阪城ホールで開かれた全日本マーチングコンテストに東海代表として出場しましたが、惜しくも銀賞でした。

二回の表彰とも後藤淳理事長が顧問の伊藤宏樹教諭や部長の遠山翔大君(三年)を激励していました。

### マッチング企業展

#### キャリアセンター

大学キャリアセンターは十月二十四、二十五の両日、八草キャンパス一号館ラウンジでマッチング企業展を開きました。今季最後の企業展で、就職未内定の学部四年生、院前期二年生が対象。愛知、岐阜、三重県を中心に様々な業種の企業が両日合わせて六十四社参加、学生は百四十八人が相談に訪れました。

渡辺修キャリアセンター



就職未内定の学生を対象に開かれた今季最後のマッチング企業展

長(機械学科教授)が「景気回復で就職活動は概ねうまくいっているが、まだまだうまくマッチングしていない学生もいる。指導を強化し学生も決意を新たにしている」ので、じっくりと説明し学生を見てほしい」と開会の挨拶をしました。

会場には各企業のテーブルが配置され、相談が始まると学生たちは早速お目当ての企業に向かっています。各企業の担当者がパソコン画面や資料を使って説明、学生たちも熱心に質問している様子が見えま

した。この後は、学生が企業へ直接向き面接や試験を受けることとなります。



故郷の木曾路をイメージした祭壇

# 故野牧先生 偲んで献花

## お別れの会に四百人

元愛知工業大学名電高等学校校長の故野牧一雄先生のお別れの会が十月二十七日、若水キャンパスの淳和記念館三階記念ホールで開かれ、後藤淳理事長はじめ、ゆかりの人たち約四百人が献花、故人を偲びました。野牧先生は高校の発展に大きな功績を遺したほか愛知ウエイトリフティング協会会長としてスポーツ界の発展にも尽くしました。八月八日、急性心筋梗塞により七十九歳で急逝。故人を偲ぶ声が高く、学園、名電高校同窓会、愛知ウエイトリフティング協会、野牧家が合同で会を催しました。

故郷の木曾路の風景をイメージした祭壇には旭日双光章受賞時の晴れ姿が遺影として飾られ、故人が好きだったという吾亦紅（われもこう）の花も添えられました。後藤淳理事長、妻の野牧千枝子さんを先頭に献花が始まり、長い列が続きました。高校ウエイトリフティング部の部員たちも訪れました。

後藤淳理事長は、会場で配布された栞で、ともに信州人としての長年の交遊に触れ「故郷で身体を休めていた八十歳の誕生日直前に突然倒れ、帰らぬ人となったことは、いまだに信じられない」とお別れの言葉を寄せていました。千枝子さんは「学園や高校の人たちに、こんなにもよくしてもらい、主人も喜んでいてと思います」と話していました。



故野牧先生の妻千枝子さんとともに献花する後藤淳理事長

# 新歌舞伎座の舞台裏は清水建設の水田氏

## 愛名会講演会

名古屋電気学園愛名会と中部産業連盟主催の講演会が十一月十五日、名古屋ガーデンパレスで開かれ、この春、東京・東銀座に完成した新歌舞伎座を建設した清水建設の水田保雄氏が「『伝統』と『最先端』の融合が文化を紡ぐ」と題して約一時間講演しました。

すべて実測してから解体が始まりました。約十萬枚の瓦は手作業で一枚一枚外したといえます。平成二十二年十月に着工しましたが、途中、東日本大震災やタイの大洪水で日程上大きな影響もあつたといえます。

水田氏は現在、同社の現場力強化推進室の上席エンジニアで室長補佐を務めています。元歌舞伎座計画建設所の所長で、約三年間務めた責任者としての経験から建設秘話などを紹介、会場を訪れた約二百人の会員らが興味深く聞き入っていました。

最大のポイントは柱のない劇場という空間の上に高層ビルを乗せるという「通常では考えられない構造」で、メガトラスというすべて溶接した大きな橋をかけた上に高層ビルを置いたそうです。歌舞伎座の外観は「ベージュに近い暖かい白」だそうで、再現に苦労した

神尾隆愛名会会長、竹内弘之中産連副会長の挨拶の後、水田氏が紹介され、世界に誇る文化的建造物である五代目歌舞伎座が造られたのは「建築上の伝統技術と最新技術の融合があつたから」と映像を使いながら、経過と特徴を説明しました。五代目歌舞伎座は四代目を踏襲するとの方針で、

四代目の音響が良かっただけに、こちらも実験を重ねたといえます。十分の一の劇場模型を作りましたが、規模による誤差を考慮して内部は空素だけを詰めて実験しました。舞台のヒノキは丹沢山系から切り出し松阪で製材、宮大工が取り付けましたが二年かかりました。

回舞台は四階ビルに匹敵し、総重量二百ト。深さ十六センチですが手動でも回せるといいます。玄関である大間の緞通は山形の女性職人が丁寧に織りまわした。柱は四代目の木と違つて鉄骨ですが、その上に漆を何度も塗り重ねたそうです。



新歌舞伎座建設の舞台裏を清水建設の水田氏が披露した講演会

その他、LED照明や楽屋などの説明がありました。ライティングは宵、夜、深夜の三パターンあり、一晩中ついているそうです。瓦もライトダウンして月の光を演出しており、水田氏は「夜の歌舞伎座もぜひ見てください」と締めくくっていました。